

支部だより

外語GCC部会第二回親睦会inドバイ

末光信裕 (F平8)

去る2005年12月17日、ドバイのリゾートで有名なジュメイラビーチにある某ホテル内スペイン料理レストランにて、外語GCC部会第二回親睦会を開催致しました。

第二回というのは、発足後間もなく第一回目の会を開催したのですが、当初会員が5名しかいなかったことと、会員の半分以上がドバイ外の御在住だった為、3名で細々と行われた次第。現在既に合計会員数は14名にまで達しており、内今回の第二回親睦会には、イエメンからの出席者1名を含む合計9名が参加、賑やかな集まりとなりました。



小生を含む一部の入門者を除き、殆どの出席者が中東アラブ地域に10年単位で携わっており、夫々の武勇伝を多数聞くことが出来、とても興味深い会でした。今後も定期的に同様の親睦会を企画する予定です。また、会員数もこのペースで増やし、次は50名を目標にしたい次第です。一点、現在男性会員のみにて、何とか女性会員を探し出したいと思っています。これが当面の課題です。

また適宜活動状況報告させていただきます。

(GCC部会幹事 在アラブ首長国連邦)

鹿児島支部

上原真人 (E昭41)

平成17年11月12日(土) 鹿児島支部総会・懇親会を開催しました。本誌昨年6月号で紹介していただいたとおり、当支部は2月に発足したばかりでしたが、その際、毎年11月第2土曜日に定例総会を持つことになりましたので、2回目の会ということになりました。2月は14名、この種の会合では創立の会の半分集まれば大成功とどなたかが書いておられたのが気になりながらふたを開けてみましたところ、2月より1名多い同窓生が集まってくださいました。ありがたいことでした。

今回の参加者は、年齢は20歳代から70歳近くまで、職種は、県庁・市役所公務員、大学・高校・予備校教員、英会話学校・税理事務所・書店経営者、専門学校生等多岐にわたって地元で活躍中であり、大学時代の話から近況まで話題も多様でした。若い参加者の一人が帰りがけに、「みなさん大先輩なんだけど同じ大学の同窓生であるというだけで何かほっとするんですね」ともらしていたのが印象的でした。



特に今回は、本誌6月号の「支部だより」の記事をきっかけに当支部に関心を寄せてくださった上原尚剛様(S昭34)に東京から特別に御参加

いただきました。三菱商事常務、千代田化工建設会長等として活躍された時のお話があり、また現在東京外語会と東京外語大との合同委員会のメンバーとして御活躍中のことで、独立法人化された大学の現状の一端についてのお話もお聞きすることができました。

また、大学の企画広報課からは最近の「東京外国語大学概要」等の資料を届けていただいて、移転後の大学の様子を知らない大多数の参加者には母校の現況を知る資料として喜ばれました。これからもささやかながら元気のいい会でありたいと願っています。

(鹿児島支部幹事)

[自宅] 〒890-0031鹿児島市武岡1-29-16

Tel:099-282-8972

E-mail: my-uehara@po.synapse.ne.jp

クアラルンプール支部

中川みずき (Ma平14)

マレーシアは日本ではまだ馴染みが薄く、依然ジャングルのイメージが強いようですが、世界最大級の高さを誇る近代的なペトロナス・ツインタワー(映画007シリーズの撮影にも使われました!)に象徴される都会と、豊富な自然をあわせもった素敵な国です。1,000社を超える日系企業が進出し、約1万人の日本人が暮らしています。

またマレーシア政府の「東方政策 (LOOK EAST)」構想のもと、国づくりの基本を日本および韓国から学べ!として、80年代から現在までに実に6,000人ものマレーシア人が日本へ留学・研修に来ています。マレーシアと日本は意外と密接な関係にあるのです。

そのマレーシアの首都・クアラルンプール(通称KL)を中心に、東京・大阪合わせ現在40名以上の外語大OBの方がご活躍されています。会員は昭36卒業の大先輩から、現地大学に留学中の現役外大生まで幅広く、職業も商社、メーカー、マスコミ等々から美容師まで様々です。うち女性は10名程度。最近では企業の派遣ではなく、マレーシア好きが高じて身一つで来馬し、

現地採用として働く若手も増えています。



クアラルンプール外語会 ('05.4.25)

これまで活動は4ヶ月に一度程度のお食事会が中心でしたが、今後はゴルフコンペやバーベキューなど楽しい企画を実現するつもりです!昨年までクアラルンプール支部の会長を務めていただいた町田博淳様(D昭46)がいらっしゃるシドニーに、思い切って遠征というのもいいなと思っています。

マレーシアに滞在予定の方はぜひご連絡ください。夜空にそびえる美しいツインタワーを眺めつつ、南国の夜に欠かせないタイガービールと果物の王様ドリアンで熱烈歓迎いたします。

ブエノスアイレス外語会

～秋のオペラの夕べ～

遠藤建也 (Po昭56)

去る3月24日初秋の気配の中、神谷会長(S昭29)のお声がかかりで、ブエノスアイレス・パレルモ地区にあるSeverinoレストランにて外語会ブエノスアイレス支部のオペラの夕べの集いがありました。

一時は経済危機の影響などで会員数も激減したとのことですが、当日は会員の奥様方も参加され、阿部さん(D昭39)、加藤さん(S昭46)、今井さんご夫妻(共にPo昭51)、米澤さん(Po昭51)、福島さん(S昭54)、それに遠藤さん(Po昭56)と夫人方の総勢13名の盛会となりました。



セベリノは美しい絵画が壁を飾り、天井が高く音響効果十分の、オペラライブにうってつけのレストランで、食事が進み夜も更けた頃、男女2名のオペラ歌手が現れ、素晴らしい声量で、ベルディの「椿姫」乾杯の歌」、ビゼー「カルメン」ハバネラ」、アグスティン・ララ「グラナダ」などを聞かせてくれました。

ブエノスアイレスではタンゴのライブをあちこちで毎晩楽しむことができますが、コロン劇場やアベニダ劇場などで、本格的なクラシックやオペラのコンサートも楽しむこともできます。また、夏には郊外の別荘に人を集めAsado(バーベキュー)をしたり、ゴルフ場も整備されているなど、回復途上の経済情勢下、仕事は一筋縄ではいきませんが、比較的好い環境に恵まれた駐在地と言えるでしょう。

今後も神谷会長の下、文化イベント、アウトドア・イベントにと、ブエノスアイレス支部発展を目指してまいりたいと思います。当地に赴任、長期出張、研究活動などで来訪される外語関係者の皆様は是非、ご一報下さい。

連絡先：ブエノスアイレス支部長・神谷衛
E-mail m-kamiya@tafixar.com.ar

関西支部総会

大塚 圭一郎 (F平9)

東京外語会関西支部総会が4月15日、大阪市北区のラマダホテル大阪(旧東洋ホテル)で開かれ、80名弱の出席者があった。

森谷輝司氏(S昭18)が、「第二次世界大戦では、戦況の悪化する中で旧満州の戦場に送り込まれた。終戦後の極寒のシベリアでの抑留生活では、コーリヤンの粥1杯の朝食で重労働を強いられ、ロシア民謡「バイカル湖のほとり」

に歌詞を付けて望郷の念と母への想いを込めた」といった激動の半生を振り返った。森谷氏は生き永らえて帰国を果たしたものの、ギターを片手に「北の果ての国 アムールのほとりに 遠く故郷離れ 帰る日待つわれ」と歌う姿には、貴重な青春と級友をいっぺんに奪った戦争のむごたらしさを物語っていた。



昨年が続いて参加して下さった来賓の池端雪浦学長は、文部科学省からの運営費交付金が毎年削減され、少子化が進む中で「小さな大学は個性を輝かせ、質を良くしないと存亡が危うい。無為無策ではつぶれるか、大規模の大学にのみ込まれる」と訴えた。その対策として、教育と研究に力を入れてきたことや、文科省の競争的資金プログラムへ次々と応募して2002年度から計13プログラムが採択されたことを紹介。「私たちは単科大学だが、3~4学部の大学でもこれだけ採択された大学はないのでは」と胸を張った。

また、東京外語会の石原隆良支部委員長(D昭31)は、関西支部の活動を「国内支部のうち一番大きく、今日も中部支部の須賀慶治支部長(E昭30)が手本にするのに見学にいらした」と評価。大阪外国語大学の同窓会、咲耶会の磯田良一会長は「悲しいことに、大阪外大は大阪大学と来年10月に統合することが決まったが、咲耶会は残したい」と述べた。

総会後の懇親会は、牧董氏(I昭21)の乾杯の発声で幕を開け、「キンキラ節」を合唱したり、テーブルごとに記念撮影をしたりした。

来年の総会は4月14日にラマダホテル大阪で開催する予定。私はこの度東京に転勤となりました。6年間お世話になりました。

(共同通信社経済部記者)